

継続事業評価シート(対象:H28年度実施事務事業)

H29年度評価

事務事業名	道路施設修繕事業					事務事業コード	01804
部 名	都市建設部	課 名	道路整備課	係 名	道路管理係	部課コード	050400

1. 事業概要

総合計画コード	5212	5124	5221	5231	
事業年度	年度 ~ H	年度	事業類型	○ソフト事業 ●ハード事業	
法令等の義務付け	●法令等(市条例・要綱等を除く)で義務付けられている事業 ○義務と任意の両方を含んでいる事業 ○任意(市条例・要綱等を含む)の自治事務			<根拠法令等(法律、条例、要綱など)> 道路法	
めざす 目的成果	緊急修繕等が確実に行われ、住民は安全に通行できている。				
事業内容	道路の緊急修繕及び小規模な修繕を行う。 パトロール又は住民からの通報により、緊急に修繕が必要な場所を発見し修繕を行う。				
事業手法	☐ 市の完全な直営 ☒ 委託等(請負、負担金、交付金等を含む) ☐ 市民等との協働 ☐ 補助金交付				
	業者と請負契約を締結し、工事を実施する。				

2. 実施結果

H28年度の事業の実施内容			舗装修繕工事 L形等修繕工事 交通安全施設修繕工事 その他	33件 37件 7件 23件			
			単位:千円	H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算見込	
投入コスト	a 事業費[イ]～[ホ]			92,913	77,506	80,000	
	財源内訳	[イ]国庫支出金					
		[ロ]県支出金					
		[ハ]地方債					
		[ニ]その他				61,794	
		[ホ]一般財源		92,913	77,506	18,206	
	b 人件費			7,694	6,595	6,229	
総コスト(a 事業費 + b 人件費)			100,607	84,101	86,229		
投入労働量		常勤職員等(人工)	1.05 人	0.90 人	0.85 人		
		一般職非常勤職員等(時間)	時間	時間	時間		
a 事業費 (H28年度決算見込)の執行内訳		道路修繕工事 80,000千円					
指標名			単位	H28目標・計画 (H28実績見込)	H29目標・計画 (H29実績見込)	H30目標・計画 (H30実績見込)	最終目標・計画 目標年度
活 動	①	道路修繕工事施工件数	件	190 (150)	190 (—)	190 (—)	H 30 年度
	②			()	(—)	(—)	H 年度
成 果	①	道路修繕工事対応率	%	100 (100)	100 (—)	100 (—)	H 30 年度
	②			()	(—)	(—)	H 年度

3. 事務事業の分析

必要性 (市が関与する必要性はあるか)	判定	☒ A 必要性が高い	☐ B 必要性がある程度認められる	☐ C 必要性が低い
	☒ 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される ☒ サービスの拡大や充実を求める意見・要望が増えている ☒ 法令等により、市に実施が義務付けられている ☒ 市が実施しないと、市民生活に深刻な影響が生じる ☐ 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で難しい ☐ その他 <説明> 道路法第16条、第42条において市町村道の管理及び維持、修繕について明記してあり常時良好な状態を保持する必要がある。			
達成度 (事業の目標は達成したか)	判定	☐ A 目標よりも大きな成果が得られた	☒ B 概ね目標の成果が得られた	☐ C 目標とする成果が得られなかった
	☐ 活動指標の目標を達成した ☒ 成果指標の目標を達成した ☒ 指標に表れない事項について目標を達成した ☒ その他 <説明: 指標の達成状況及び改善等に関する達成状況を記入> パトロール、市民からのご意見・ご要望により道路の陥没等、把握したものに早急に対応し、賠償責任を問われた事故はなかった。			
留意点 (政策の立案・推進に際して)	<説明: 留意した点について記入> 思いやり: 道路修繕を早急に対応することにより、誰もが安全に通行可能な道路環境を維持できた。 参加と協働: 職員によるパトロール、市民からのご意見・ご要望により道路の維持管理を行った。 経営的な視点: 早急な道路修繕を行うことにより事故を未然に防ぐことで、損害賠償等の問題がなくなった。			
見直し余地 (事業の内容、実施手法等は適切か)	判定	☐ I 見直す余地がない	☒ II 見直す余地がある程度認められる	☐ III 見直す余地がある
	☐ 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある ☒ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある ☐ サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある ☐ 受益者負担のあり方について見直す余地がある ☐ 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある ☐ 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト圧縮の余地がある ☒ その他 <説明> 道路の陥没等、交通事故につながる恐れのある情報を把握したときは早急に対応し事故を未然に防いでいるが、情報収集等について他市の状況などを研究していく必要がある。			

4. 今後の展開方針[課としての判断]

事業の方向性	☒ A 市で継続実施 ☐ B 休止・廃止 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ C 民営化 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ D 国・県に移譲 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ E 終了 (実施時期: ☐ H28年度まで ☐ H29年度まで ☐ H30年度まで)			
	成果の方向性	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小		
今後の取組方針	投入資源の方向性	事業費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		労働費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		☐ A 見直して継続 ☒ B 現状のまま継続		
	見直しの方向性	☐ 民間委託・PFI・指定管理者等を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ 業務プロセス改善 (実施時期: H 年度) ☐ 対象・水準等の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 受益者負担の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 臨時・再任用職員等の活用を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ 市民等との協働を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ その他 (実施時期: H 年度)		
方針 (次年度の改善内容等を含めた具体的な事業の展開方針)		道路や道路施設の修繕を今後も早急かつ適切に対応する。		